令和６年４月４日

令和６年度前期始業式　挨拶

１カ月前に 23３名の卒業生の門出を祝ったところですが、明日の令和６年度入学式においては、新たに 243 名の新入生を迎えることになります。新入生が１日も早く、本校の学校生活に慣れるよう暖かくサポートしてもらいたいと思います。

４月となり、一段と暖かさを感じる中、皆さんも新年度が始まるという心地よい緊張感を持ってこの場にいるのではないかと思います。しかし、国内外を見渡せば、様々な状況の中、厳しい現実の前にただ呆然とするしかない人たちも多くいます。例えば、パレスチナ・イスラエル情勢もその一つでしょう。

この春休み中に、本校の図書館にも入っていますが、講談社現代新書の『ハンナ・アーレント』を再度読んでみました。第二次世界大戦中、ナチス・ドイツがユダヤ人などに対して組織的に行った絶滅政策・大量虐殺、いわゆる“ホロコースト”で、およそ 600 万人のユダヤ人がアウシュビッツ収容所などで犠牲となったと言われています。

ユダヤ人に対する“ホロコースト”ついては社会科の授業などで学んでいるかと思います。現在のパレスチナ・イスラエル情勢もこの悲惨な出来事と繋がっています。しかし、現在のイスラエルによるガザ地区における蛮行は、決して容認できるものではありませんが。この大虐殺のシステムの構築と運営に主導的な役割を果たしたのが、ナチス親衛隊中佐のアルフレッド・アイヒマンという人物です。彼は、ＷＷⅡ後の 1960 年に南米のアルゼンチンで逃亡生活を送っていたところをイスラエルの秘密警察であるモサドに拿捕され、エルサレムで裁判を受け、1962 年に処刑されました。このアイヒマン裁判を傍聴し、『エルサレムのアイヒマン』として記録に残したのが、ユダヤ人哲学者のハンナ・アーレントという女性です。

拿捕されて、裁判を受けたアイヒマンを見て、多くの人が驚きました。何故か。誰もが、約 600 万人ともいわれるユダヤ人を虐殺した中心的な人物は「冷徹で屈強なゲルマン戦士」と想像していました。しかし、実際の彼は、血も涙もない怪物ではなく、凡庸な人柄で、家族を大切にし、純粋に出世のために与えられた任務、言われた仕事を一生懸命するという、すなわちどこにでもいるようなごく普通の人物だったからです。彼女の著書『エルサレムのアイヒマン』には「悪の陳腐さについての報告」という副題が付けられています。“陳腐さ”とは“ありふれてつまらない”という意味です。すなわち、私たちは“悪”といえば、私たちにとっては対極に位置したもので、“とんでもないこと、自分たちとは関係のないもの“と捉えていると思います。しかし、アーレントは、「陳腐」という言葉を使いながら、誰もがアイヒマンと同じ状況になれば同じように命令に従い、同じことをする可能性があり、「悪とは、制度を無批判に受け入れることである」こと、すなわち、悪の本質は「受動的」であることだ

と警鐘を鳴らしています。
　私たちは様々な法律や制度、慣例、慣習のもと、安定した日常生活を過ごしています。しかし、ややもすれば、「それが法律だから」「上司あるいは先生に言われたから」「これまでやってきたことだから」というように、自ら考えることなく受け入れてしまっていることが往々にしてあるのではないでしょうか。そのことが、“同調圧力”、“多様性の否定”となり、組織や社会の劣化に繋がっていくのではないではないかと思います。
　３月 21 日に行われた、２年生、現３年生の「総合的な探究の時間発表会」であるグループが、“クリティカル・シンキング”、“批判的思考”の重要性に触れた発表をしていました。現在は、変化が激しく、価値観が多様化し、社会の変革期だと思います。だからこそ、流されることなく、またすべてを受容するのではなく、「果たしてそのことは正しいのか」ということを問うことがとても重要だと思います。このことは、学校生活を送る上でも同じです。まだまだ既成概念に染まっていない皆さんにはより能動的に考え、行動してもらいたいと願っています。それは、これからの時代を切り拓いてより良い社会を創造していくのは、皆さん自身だからです。

　もうひとつ、春休み、３年生のある保護者の方から
「３年生になるということで、これまで以上に机に向かって、勉強する姿が長くなりました。これも自覚の現れなのでしょうか。これが結果に表れるとよいのですが…。」と、その保護者の方には「すぐに結果としてでないかもしれないが、続けることがとても大切だと思いますよ」と話しました。保護者の方から、生徒の意識の変化、行動の変容を示す話を保護者から直接聞きくことができ、自分としてもうれしく思った次第です。

　最後に、昨年度も話したと思いますが、校長室は皆さんにとってもオープンです。何かあれば、何もなくても良いですが、遠慮なく校長室のドアをノックしてみて下さい。今年度１年間が皆さんにとって充実したものとなることを願っています。以上、令和６年度前期始業式の挨拶とします。